

第1, 2回策定検討委員会の委員意見に対する対応方針(案)

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第3回委員会	第4回以降	
現状について	自然環境の変化	資料1-1の現況に、里地里山の消失が大きく書かれているが、実際の生活感覚としては、空き地やスズメを見かけなくなっていることなど、市街地の生物の生育・生息空間が減少していることが挙げられる。そのような分析がされていないと思う。 例えば、若久団地の環境アセスメント案件では、団地ができた頃のデータを調査しているはずである。そのようなデータを活用することで、市街地の面開発の歴史の中で、どういった動きがあったか分かるのではないかと。(浅野委員長)	反映	第2章2. (1) 1陸域生態系において、市街地内に点在した緑地や農地など身近な生物の生育・生息空間の減少を記載。 第2章2. (2) 1陸域生態系に掲載している「生物生息空間地図」から、周辺に樹林地農地の残る「住宅型」から、商業地や住宅地が密集する「都市型」への変化を読み取った。	→	
		近年の状況として自然が減少しているだけでなく、用排水路の分離やコンクリート化、森林が残っていても管理放棄されたスギ林や増加する竹林など自然の構造が変化しているともいえる。このように面積だけでなく質が変化していることも考慮しなければいけないと思う。(横山委員)	反映	森林や耕作地の管理放棄、耕作放棄については、既に第2章1. (3) 1土地利用の変化において記載済みであるが、第3章1. 生物多様性の健全性の変化の要因分析と課題においても、管理不足などによる生態系の質の低下に言及。	→	
	田畑などの身近な自然が減少しているのはもちろんであるが、そのような自然が活用されなくなっているのが課題である。自然の減少ばかりを述べると少々悲観的になってしまう。自然が活用されている事例が市内にはたくさんあると思う。(浅野委員長)	反映				
	企業の責任	自然環境に対しての企業の責任は、大きい意味でも小さい意味でもあると思う。例えば、会社・工場敷地や市街地の緑化に企業のお金を利用するなど、福岡市における企業の責任は大きいと考える。(佐々木委員)	検討中	事業者アンケートの結果なども踏まえ、基本施策、行動計画の中で企業の役割を明示する。	→	
	生物多様性について役割を果たすことを意識している企業もあるが、何をすればよいかかわからない企業がほとんどであるのが現状のようである。何をすればいいのかを示せば、企業が動く可能性はある。(浅野委員長)					
地球温暖化(環境の変化)	福岡市の気温変化は、100年間の平均気温3.0℃ではなく3.2℃の上昇で、最低気温は4.3℃ではなく5.3℃の上昇が最新データであり、福岡市の気温がさらに上昇しているのがわかる。この傾向は、街の中の緑の減少や開発の進行の影響の現れであると考えられる。(小野委員)	反映	委員意見を踏まえ、修正。	→		
その他	戦略策定のねらい「福岡市の活力の維持、向上に資するための長期的な成長戦略」を反映するため、現状の整理についても、取り巻く自然に限定せずに「福岡市の活力」に関連した現状を整理してはいかかが。(今田委員)	記載済	「福岡市の活力」に関連する現状については、第2章1. (1)社会状況の変化や(2)暮らしの変化、さらには第2章3. (3)供給サービスや(4)文化的サービスなどにおいて記載しており、これらを内部環境の要素としてSWOT分析などに活用する。	→		
課題について	全体	作業中	今回の資料で提示している課題は、事務局で収集した既存文献を整理し、資料1-1で示した現状から、変化の方向を要因分析し、抽出したものである。ご指摘にあった環境活動を行っている市民団体や農林業従事者の意見については、NPO団体に対して既にアンケートを実施しているほか、市民や事業者に対してのアンケートも予定している。今後、それらの結果を整理し、市民の声として盛り込みたいと考えている。	→		
外的要因	環境影響評価制度の充実	反映	委員意見を踏まえ、修正。	→		
	地球温暖化	反映	委員意見を踏まえ、第4章4. (5)エネルギー政策の見直しの項目を追加。	→		
現状と課題	現状と課題については、戦略づくりを進めながら、フィードバックし、修正を加えていく必要があると思う。(浅野委員長)	今後随時反映	委員意見を踏まえ、戦略づくりの中で必要に応じて加筆・修正を行っていくものとする。	→		
戦略の理念・目標・方向性	全体	検討中	ご指摘をふまえ、現状と課題からつながる具体的な方向性を整理し、合わせて目標を提示する。 「生物多様性ふくおか戦略(仮称)」の全体構成を示す。	→		

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第3回委員会	第4回以降
戦略の理念・目標・方向性	SWOT分析の中で、例えば「生態系の著しい減少」という書きぶりは、内容は理解できるが表現として適切ではないと思う。(浅野委員長)	検討中	委員意見を踏まえ、修正する。	→	
	戦略策定のねらい「福岡市の活力の維持、向上に資するための長期的な成長戦略」の、「福岡市の活力」が何であり、何に由来するのかを示し、福岡市の自然環境や生態系、生物が、「活力」にどのような影響を与えているのかをSWOT分析したほうがよいと思う。(今田委員)	検討中	内部環境と外部環境は市内と市外で、ゾーンで切り分けて検討しているが、ご指摘のように内部環境が生き物の内容に偏っているなど課題があるため、意見を踏まえて再検討を行う。 また、現状と課題で整理した特徴的な変化要因が遺漏なく盛り込まれるように、「変化の状況・要因」をベースに分析をなおす。	→	
	内部環境の項目が「生態系の多様性」や「種の多様性・危うさ」などの生き物についてのことのみ記載されているので、例えば、「福岡市民の意識の高まり」や「福岡市内に整備された施設」、「福岡市内の開発」などの項目を盛り込んではいかがか。(志賀委員)				
	内部環境と外部環境の定義づけをはっきりしたほうがよいと思う。説明では、福岡市を内部、市外を外部としているが、実際は自然を内部、人間活動を外部としているように受け取れてしまう部分がある。内部環境は市内のみ、外部環境は市外のみと切り分けを明確にしたほうがよいと思う。(志賀委員)				
	現状では漁業について示されているが、SWOT分析では記載されていないように、現状とSWOT分析が繋がっていないように受け取れる。(服部委員)	検討中	ご指摘のように、特に外部環境の「脅威」と「機会」に関しては、二面性を持っている要素もあるため、ご意見を踏まえて再検討を行う。	→	
	外部環境の脅威として、人口減少を挙げているが、福岡市の人口動態は、今後も増加を続けるのではないかと疑問である。(横山委員)				
	SWOT分析の方法がわかりづらい。挙げられている各項目には二面性があるため、一概にプラスとマイナスに分類するのは難しい。(森委員)	検討中	ご指摘のように、特に内部環境の「強み」と「弱み」に関しては、量的な側面に偏っているため、ご意見を踏まえて再検討を行う。	→	
	SWOT分析のような分析や議論を行う際、量と質の考え方が混同してしまうことがあるため、留意して議論したほうがよいと思う。(小野委員)	検討中	福岡市内においても、脊振山など市の外縁部の一部地域では、里山のエネルギー利用の実態は行われていたが、「エネルギー供給構造の変化による人と自然との希薄化」に言及できるほどの利用があったとは考え難いため、事実としては明記するものの、課題としてどのように記載するかについては、再検討を行う。	→	
	内部や外部の環境をまとめる際に、森林や水田の面積の減少だけでなく、質的な変化も考慮して記載するべきである。(薛委員)				
	「エネルギー供給構造の変化による人と自然との関わり希薄化」は、里山の薪炭林としての利用のことを述べていると思うが、そのような利用形態は、福岡市とその周辺では該当しないのではないかと考える。(浅野委員長)				
里山の利用は、市街地ではなかったかもしれないが、外縁部の一部の地域で実際に行われていたことだと認識している。また、生物多様性国家戦略の中でも、3つの課題のうちの1つとして、里山の管理不足による自然環境の変質が記載されている。そのため、表現をわかりやすくする必要はあるかもしれないが、課題の一つとして、挙げておく必要があると思う。(志賀委員)	検討中	土地利用やまちづくりなどの計画は、概ね10年スパンで策定されるため、50～100年後を目標とする本戦略では、人口減少や高齢社会に配慮しつつ、むしろ開発計画などで配慮すべき大きな方向性を示すものと考えている。	→		
明治期の地形図によると、脊振山の福岡市側には萱場のような草地があったことが示されている。(横山委員)					
目標	目標を示すのであれば、福岡市の開発計画や人口動態などを含めた2050年までの時間的なスケジュール、年表のようなものが必要であると思う。(佐々木委員)	検討中	ご指摘をふまえ、理念・目標・方向性を再整理して示したい。	→	
	この目標「将来にわたって継続的に生物多様性の恵みを受受できるまち」は、生物多様性の恩恵を受け取るだけの消費者的な立場で書かれている印象を受ける。(浅野委員長)	検討中		→	
方向性	戦略の方向性を立てる際は、的確な情報発信と環境教育を柱の一つに置いてほしい。(森委員)	検討中	ご指摘頂いた福岡市の現状認識や将来のまちの姿などを踏まえ、50年後あるいは100年後など、時間軸を設定して目標等を再整理して示したい。	→	
	研究機関としての大学の役割だけでなく、大学生に対して福岡市を盛り立てようという意識づけを図るための教育体制を検討していただけるとよいと思う。(和栗委員)				
	生物多様性を次世代に継承するには、守るべき自然を守り、再生すべき自然を再生し、自然がなければ創出し、維持管理していくという考え方を持っていただくほうがよいと思う。(小野委員)				
	2050年後の福岡市を想定すると、人口の一極集中は変わらず、大陸との交流はより活発化し、開発がこれ以上広がることはないと思う。そのため、現在ある自然はそのまま残ると思う。そのイメージを持って、戦略策定を進めていただきたい。(浅野委員長)				
この戦略は、市民が誇りを持って住み続けたい都市のキーワードとして重要になってくると思う。地元住民や企業が生き物を見守り、育てていくことに誇りを持つような戦略にしてほしい。(佐々木委員)					

検討項目	委員意見	対応		スケジュール	
		反映の有無	対応方針	第3回委員会	第4回以降
全体構成	この戦略の精度や全体構造、望ましい戦略の内容が示され、どの部分について検討しているのかがわかると議論しやすい。次回の委員会では、全体の目次構成と戦略でどの程度のレベルまで書き込むかを示していただけるとよいと思う。(薛委員)	検討中	戦略の全体構成については第一回委員会でも概略を示しているが、再度、どのような位置づけで、どのくらい先を目指し、どのような構成で、どこまで書き込むのかを示す。	→	
	福岡市の多様な地域特性から導き出される方向性をどのように示すかを検討する必要があると思う。(浅野委員長)				
	この戦略において、50年後、100年後のビジョンをはっきりと示してはいかか。(服部委員)				
	この戦略の中で、第1ステップとして市民に持っていただきたい認識は方向性や目標の中で示されているが、第2ステップとして何をやっていくのかの内容が示されていない。(浅野委員長)				
	長期的な将来の夢やビジョンを描き、その実現に向けて、現在の現実的な取り組みを検討してもよいと思う。(小野委員)				
アンケート調査	戦略策定のためのアンケートであるのならば、例えば戦略に関することなど、戦略策定に役立つ設問を設けてはいかか。(今田委員)	回答済	今回のアンケート調査で、キークエスションとして考えているのは、設問D「市民の生物多様性に関する取り組み状況」と、設問E「福岡の生物多様性を保全していく方向性」である。その設問に向けて、前段として設問A～Cを設けている。		
	このようなアンケート調査でわかることは限られているため、自然保護団体数や事業者のCSR活動数を他市と比較するなど、取組みを定量的に把握し、客観的な指標としてはいかか。(今田委員)	回答済	福岡市内の36のNPO団体を対象としたアンケートを実施している。今年度は必要に応じて、その中から数団体を選定し、ヒアリングを行う予定である。また、事業者アンケート調査結果を基に、面白い取組みがある場合は、事業者に対してヒアリングを行うことも検討する。		
	アンケート調査のテーマが「生物多様性」という、認知度がまだ低いものであるため、今回の調査をきっかけとして、市民に広く知ってもらえる機会になればよいと思う。(浅野委員長)	回答済	事務局においても、ご指摘のような役割も持つものと認識している。		
	市民アンケート(資料3-1)の問6、福岡の大切にしたい自然という設問の選択肢の中に、「ブナ林などの自然性の高い林」とあるが、福岡市域内には、ほとんどないと思うため、変更していただきたい。(浅野委員長)	反映	ご指摘の通り、選択肢を適切な内容に変更する。	→	
	事業者アンケート(資料3-2)の問10、12、生物多様性の保全及び利用に関する具体的な取組みの選択肢として、「サンゴ礁の再生」とあるが、これを、福岡の地域特性に即した内容に変更していただきたい。(浅野委員長)	反映			
竹林の竹材チップ化、社員のボランティア派遣、フェアトレードの商品流通などのような企業の取組みも、事業者アンケート(資料3-2)の問10、12、生物多様性の保全及び利用に関する具体的な取組みの選択肢に加え、選択肢の幅を広げてはいかかと思う。(志賀委員)	反映				
関連計画	この関連計画を戦略にどのように関連付けるのかうかがいたい。(薛委員)	回答済	個別の施策を、生物多様性に直接関係するものと間接的に関係するものに分類している。直接関係するものについては、戦略の施策体系として取り入れ、間接的に関係するものは、その計画を改定する際に生物多様性に配慮した内容を加えていただくようお願いする予定である。		
	関連計画を把握していく中で、今後2～3年の各計画の方向性がわかるとよいと思う。現在見直しを進めている計画については、見直した後の内容が反映されているとよりよいと思う。(佐々木委員)	検討中	来年度以降改定・策定される計画だけでなく、今年度改定する計画についても、まだ戦略策定されないものの、戦略の考え方に配慮していただく予定である。	→	
	県や国の関連計画や観光分野、アジア圏などの広域的な動きの把握や連携も必要ではないのか。(今田委員)	検討中	福岡市の関係している広域連携については、既に一部把握しているが、今後も把握を進める。	→	
	観光分野の関連計画はないのか。(今田委員)	回答済	観光に関する計画は策定されておらず、観光課という部署もないものの、集客企画課という部署が戦略策定検討の課長級会議に参加している。		

検討項目	委員意見	対応		スケジュール		
		反映の有無	対応方針	第3回委員会	第4回以降	
第1回からの継続項目						
用語の使い方	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性・生態系サービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性ふくおか戦略(仮称)を策定する際には、この戦略を読んでもらう対象者層を設定し、「生物多様性」や「生態系サービス」などの用語の使い方に留意した方がよい。(荒井委員) 	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケート調査結果なども参考にしながら、戦略の素案を作成する段階で、一般の方にもわかりやすいよう、表現を工夫。 		→
他地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市内あるいは福岡都市圏で自己完結するのではなく、他の圏域との連携を重視したほうが良いと感じている。(浅野委員長) ・野鳥の生息環境に関して、福岡市は、繁殖地、越冬地、中継地などの評価すべきファクターがあり、市域に限定した生態系の評価は難しい。この点においても、福岡市外を含めた他の地域と連携する視点が大切ではないだろうか。(小野委員) ・他地域との連携の視点をもつことが重要だと思う。特に、哺乳類の場合には、個体数の増減を広域で捉えた方がよい。(荒井委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内あるいは福岡都市圏で自己完結するのではなく、他の圏域との連携を重視したほうが良いと感じている。(浅野委員長) ・野鳥の生息環境に関して、福岡市は、繁殖地、越冬地、中継地などの評価すべきファクターがあり、市域に限定した生態系の評価は難しい。この点においても、福岡市外を含めた他の地域と連携する視点が大切ではないだろうか。(小野委員) ・他地域との連携の視点をもつことが重要だと思う。特に、哺乳類の場合には、個体数の増減を広域で捉えた方がよい。(荒井委員) 	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・行動計画、推進体制の検討に際して、他地域との連携を視野に入れた計画を検討。(具体的にどの程度まで踏み込むか、要協議。) 		→
戦略の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・特色によりゾーンで分け、各ゾーンでそれぞれ、自然を保全するのか、再生するのか、創出するのかなど、方向性を検討した方がよいのではないだろうか。(荒井委員・小野委員) ・都市の生態系を考える場合、自然地域と都市の内部を結びつける緑のコリドーという観点も大切である。(横山委員) ・コリドーの形成は、ヒートアイランド現象の緩和にも効果があると思われ、まちづくりの観点からの検討も必要と思われる。(小野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・特色によりゾーンで分け、各ゾーンでそれぞれ、自然を保全するのか、再生するのか、創出するのかなど、方向性を検討した方がよいのではないだろうか。(荒井委員・小野委員) ・都市の生態系を考える場合、自然地域と都市の内部を結びつける緑のコリドーという観点も大切である。(横山委員) ・コリドーの形成は、ヒートアイランド現象の緩和にも効果があると思われ、まちづくりの観点からの検討も必要と思われる。(小野委員) 	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン区分については、戦略の位置づけを踏まえ、戦略とは別に環境基本計画の部門別計画として、別途検討する方向で考えている。但し、地域特性ごとの将来像(目標とする姿)などは示すことを検討。 		→
	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性というのは、守るべきものは守り、利用すべきものは利用するというスタンスの考え方である。いわば、「持続的に自然と共生する」ということであり、このことを明確に打ち出していくべきだと思う。(浅野委員長) ・生態系というのはシステムそのものをいうのであり、常に変移し続けるものである。したがって、生態系を保全するという考え方そのものが成り立たないと思う。(浅野委員長) ・福岡市には、ある程度自然を犠牲にしても、九州の経済を牽引する役割がある。このことを前提として、自然との共生を考える必要があるのではないだろうか。(今田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・生物多様性というのは、守るべきものは守り、利用すべきものは利用するというスタンスの考え方である。いわば、「持続的に自然と共生する」ということであり、このことを明確に打ち出していくべきだと思う。(浅野委員長) ・生態系というのはシステムそのものをいうのであり、常に変移し続けるものである。したがって、生態系を保全するという考え方そのものが成り立たないと思う。(浅野委員長) ・福岡市には、ある程度自然を犠牲にしても、九州の経済を牽引する役割がある。このことを前提として、自然との共生を考える必要があるのではないだろうか。(今田委員) 	検討中	<ul style="list-style-type: none"> ・生態系は人間との相互の作用によって成立していることを踏まえ、生物多様性の保全に偏らず、「持続的に自然と共生する」という考え方を戦略の方向性の検討に反映していきたいと考える。 		→